

職員全体勉強会

日時：2026年2月18日（水）

今月は



「病院での転倒予防について考える」

— チームで取り組む転倒予防 —

講師：エーザイ株式会社 エーザイ・ジャパン 中村 亘成氏

事業継続計画（BCP）の概念と訓練の流れ

講師：木下 景太医師



今回は、職員の転倒予防に関する知識向上を目的として職員勉強会を開催しました。講義では、サブテーマ「チームで取り組む転倒予防」に沿って、転倒予防の基本的な考え方、他施設の実践事例、患者・家族を巻き込んだ予防策、チーム活動を継続するための工夫など、多岐にわたる内容が紹介されました。

さらに後半では、BCP（事業継続計画）についての講義があり、災害時に医療機能を維持するための考え方や訓練の重要性について理解を深める機会となりました。

1. 転倒予防の概要 講義

転倒・転落事故の解説、転倒予防チームの活動紹介、患者・家族参加型転倒予防対策、転倒予防チームを楽しく継続できる工夫とコツ という内容の動画を見て以下の内容について理解を深めました。

(1) 転倒・転落予防の基礎と考え方

転倒のリスク要因、環境・身体・認知面からの多角的アプローチ
チームで取り組む意義

(2) 転倒予防チームの活動紹介（A県H病院の取組）

多職種での情報共有、リスク評価の標準化、チーム活動を継続するための工夫
メンバーが“楽しく参加できる”仕組みづくり

(3) 患者・家族参加型の転倒予防対策

家族への説明や協力依頼のポイント
患者自身が理解しやすい情報提供の工夫
共同で取り組むことで予防効果を高める視点



2. 医療事故情報収集等事業の報告事例の紹介

動画視聴後、日本医療機能評価機構「医療事故情報収集等事業」に掲載されている転倒関連事例について、講師より解説がありました。具体的には以下のような事例が紹介され、現場で起こり得るリスクを再認識する機会となりました。

(1) 外来での転倒事例

- 手押し車を使用中に転倒
- 診察室の丸椅子に座ろうとして転倒



(2) 病棟での転倒事例

- 不適切な履物による転倒
- 点滴スタンドが進行方向と逆に動き、傾いたスタンドを支えようとして転倒
- センサーマットを職員がよけて対応していたため、患者さんも同様にマットを避けてベッドを降りようとして転倒



これらの事例から、「患者さんの行動をどう予測し、どう伝え、どう環境を整えるか」という視点の重要性が改めて強調されました。



今回は講義時間が限られていたため、意見交換は実施できませんでした。しかし、**現場での課題や工夫を共有**することは転倒予防の質を高めるうえで非常に有意義であるため、次回はグループワークの時間を設けたいと考えます。

3. BCP (Business Continuity Plan) 講義

勉強会の後半では、BCP (事業継続計画) について講義が行われました。

講義内容

- BCP の基本概念
- 災害対策との違い
- 訓練の重要性と評価の方法
- 医療機関としての事業継続の視点



BCP は「災害が起きたときにどう動くか」だけでなく、“**限られた資源の中で、どの業務を優先し、どう継続させるか**”という視点が重要です。

災害対策と BCP は同じように見えて、

- 災害対策 = 被害を減らすための備え
- BCP = 医療機能を止めないための計画 という役割の違いがあります。



「計画を作るだけでは意味がなく、訓練と評価を繰り返して初めて機能する」
実際の災害時には、マニュアル通りにいかない場面が多く、日頃からの訓練が

“現場で動ける力” につながります。BCP については、転倒予防と同様に
“全職員で取り組むべき課題”であることを再認識しました。

全体を通して、転倒予防の基本から実践事例、事故報告の分析、そして BCP まで幅広く学ぶことができました。転倒予防は看護・介護・リハビリ・医師・事務など、すべての職種が関わる取り組みであり、今後も継続して学び、現場での実践につなげていきたいと考えています。

